

1961年さいたま市生まれ。埼玉大学教育学部卒。  
1984年に市立大宮北小学校にて教職に就く。  
以降さいたま市内のいくつもの小学校で教鞭をとり、  
2011年にさいたま市立指扇小学校校長に着任。  
2016年にはさいたま市教育委員会、生涯学習部の参事となる。  
2018年から22年さいたま市立大宮小学校校長。



OMIYA  
PEOPLE  
No.007

## 石井寛 | さいたま市立大宮小学校校長 \*2022年退任

### 地域とともに歩む大宮小学校

「UDCO PAPER——ひとを紡ぐ」#011では、大宮駅東口からも近く、間もなく創立150周年を迎えるさいたま市立大宮小学校の校長の石井寛先生に小学校と地域との在り方について伺いました。 [聞き手:UDCO]

#### 大宮小学校のあゆみ、地域に開かれた小学校

**UDCO** 大宮小学校の歴史や、特徴についてお話を聞かせてください。

**石井** 大宮小学校は今年148周年を迎え、再来年には創立150周年を迎えます。大宮小学校という名前の通り、鉄道や製糸産業で栄えていた「大宮町」であった明治時代に創立し、大宮市からさいたま市へと変わるなかで、大宮の学校の中心的な役割を担うような存在です。長い歴史のなかで、「行内研究」と呼ばれる教育の研究が盛んで、ひとつの伝統として脈々と受け継がれています。現在は子ども

たちの自己肯定感を高める方法について研究テーマにしています。

また、まちの真ん中にあり、地域とのつながりがとても強く、地域とともに歩む学校と言えます。地域の方も学校に興味を持ってくださり、学校の活動に協力していただくボランティアの登録者が100人を超えるほどです。ボランティアのなかには代々小学校に通っている方もいれば、新たに大宮に引っ越してきた方もいます。



創立90周年のバレード(左)、大正期の校舎のスケッチ(右) | 以下注記のない図版は、すべて提供=大宮小学校

**UDCO** ありがとうございます。地域との具体的な関わりについてお聞かせいただけますか？

**石井** 大宮には官民間問わずいろいろな団体が活動していて、その活動の会場として学校を使うことが多いです。例えばさいたま市社会福祉協議会大宮区事務所が主催している「ふれあいの集い」では学校を会場とし、食事の提供やバザーをしたり、小学校の児童が出し物をしたりします。大宮区スポーツ振興会による地域の大人の運動会は校庭を利用して行います。また「アートフルゆめまつり」でも学校を使い、さまざまな音楽演奏やパフォーマンス、アートの展示が行われます。自分の学校が会場となるので、児童たちも気軽に参加できます。また、大宮夏まつりの「中山道まつり」では小学校の一室が神輿などの控え室として使われ、神輿を担ぐ子どもたちもいます。こうしたイベントにあたり、われわれは地域の方と打ち合わせをし、必要であれば学校の道具も貸し出します。学校が会場になることで、地域とのあらゆる接点が生まれています。このように地域と学校は非常に風通しの良い関係性が築かれていて、子ども

たちにとっては、学校を通してまちの文化を知ることができ、さまざまな出会いを生む機会と

学校を通して  
まちの文化を知る



学校を利用したバザーの様子(左)、まち探検の様子(中央左・右)、おは活の様子(右)

なっています。今の子どもたちにとっては面白いコンテンツが身の回りに溢れ、「地域の活動に参加する」と言ってもなかなか興味を持っていないのですが、やはり面白いイベントがあればいってみようかなという気持ちになる。それを地域の大人が仕込んでいるわけですね。

### 地域とつながる教育

**UDCO** 先日、中央通りのお店に入ったら職業体験をしている子どもたちを見かけました。どのような活動なのでしょう。

**石井** 2年生の授業で「まち探検」という活動をしています。地域のお店や公共施設などに訪れ子どもが従業員や職員の方に質問をし、それに答えてもらい、地域や仕事を知るきっかけとなる取り組みです。ほかにも地域と関わりのある授業として、4年生の総合的な学習の時間を利用して子どもたちが地域の募金箱を作成する奉仕活動も行っています。そして、学校の伝統行事となっている地域の清掃活動「おはよう活動(おは活)」があります。以前は学校の前の通りに自転車の駐輪や、ゴミが目立っていました。これは何かしなければならぬということ、地域の方々が通りに花を植えることがきっかけとなり、学校としても通りの清掃活動を始めました。「おは活」は授業前に行う学校の歴史のような活動で、子どもたちの親も取り組んでいたことも多く、家庭でも共有できる活動になっています。継続的な活動のおかげで、今ではマナーも改善されゴミもほとんどなくなりました。

**UDCO** 学校からも近い、氷川神社や氷川参道との関係性についてお聞かせください。

**石井** 子どもたちにとって氷川参道は特別なものというより、通学路に利用することもあり生活の一部のような存在です。また毎年12月に行われる大湯祭に合わせて開催される十日市(とおかまち)の際は、参道にも露店が並びます。その日は、子どもたちができるだけ参加できるように学校を早く終わらせています。そのため参道といえは十日市というイメージを持っている子どもたちも多いのではないのでしょうか。ほかにも特別支援学級では、大宮公園にどん

ぐりを採りに行くことや、園内の小動物園で動物と触れ合う時間もあり、周辺の良い環境を活かしながら小学校の生活を進めています。

### 大宮小学校の将来像

**UDCO** 今後どのように大宮小学校が変わっていったら良いか、将来像についてお聞かせください。

**石井** 「地域とともに」という土台は変わらず、また脈々と受け継がれている伝統も続いていくと思います。創立90周年の際には中央通りでパレードが行われましたが、再来年に150周年を迎え節目の行事が開かれると思いますので、これまで地域で支えてくださっている方々からもさらに小学校が目立っていくだろうと思います。

また中央デパート跡地に「大宮門街」がオープンし、東口の開発が少しずつ進められていますよね。校舎の老朽化は課題ですし、建て替えを検討する時期に差し掛かっているのは間違いありません。東口の開発とともに学校の新たな姿をリンクさせて考えなければならぬのではないかと思います。施設が変われば子どもたちの雰囲気も変わると思いますが、**伝統や地域との関わりを残しながら、新たな時代の**大宮小学校が生まれていくことを期待しています。

**UDCO** 旧大宮区役所の解体が始まりましたが、旧区役所を訪れると、校庭で活動する子どもたちの様子が伺え、とても新鮮な体験でした。

**石井** 旧区役所の東館は小学校と隣接し一部が繋がりが、児童数の最盛期には校舎であった部分を、児童数の減少に伴い区役所として利用しています。現在5、6年生が3クラス、1~4年生が4クラスあるのですが、去年までは2クラスの学年もありました。10年ほど前は全学年が2クラスの児童数だったのです。そこからマンション開発により、児童数が増えてきて、現在のクラス数になっています。現在約700人の児童のうち200人ほどが小学校南側のマンションから通う児童ですが、新しく大宮に住む子どもたちも自然と地域に馴染んでい

て、柔軟な雰囲気が大宮にあるように感じています。

## 自然と地域に馴染む

### 石井校長の思う大宮の魅力

**UDCO** 石井校長の個人的な思

いとして、大宮の魅力は何でしょうか？

**石井** じつは私も大宮生まれ、大宮育ちで、家も氷川参道のすぐ近くです。それこそ参道が砂利道だった幼少期の頃から大宮のことを知っています。魅力というと、やはり活気のあるところですね。大宮はかつて鉄道の街で、大宮操作場で働く人たちのための歓楽街もあって、どこかごちゃごちゃした雰囲気が昔からありました。こうしたエネルギーな雰囲気が魅力のひとつだと思います。一方で少し外れると田んぼが広がり、氷川参道や神社があり雰囲気が変わる。動的な場所と静的な部分が共存しており、じつは住環境としてもかなり優れたまちなのではないでしょうか。

### UDCOへの期待

**UDCO** 最後にUDCOに対する期待をお聞かせください。

**石井** 住民の皆さんはこの地域に思い入れが強い人が多いのですが、それぞれ思いが異なり、その部分をうまく調整する人が必要だと思います。まちづくりを進めるためには住民だけではどうにもならず、東口の開発が立ち遅れたのも、こうした調整が足りなかったことが原因だったのではないのでしょうか。UDCOの皆さんはまちづくりの先進事例も多くご存知だと思います。さまざまな事例や知見を活かしてもらいながら、地域の声も聞きつつ、大宮らしいまちづくりのコーディネートの役割を期待しています。



現在の校舎の様子

### UDCO PAPER #011 — ひとを紡ぐ

2022年4月20日発行

編集・発行：UDCO[アーバンデザインセンター大宮]

編集協力：中村睦美

デザイン：刈谷悠三・角田奈央・neucitora

問合せ先：UDCO[アーバンデザインセンター大宮]

330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町一丁目60番地

大宮ラクーン8F まちラボおみやや内

TEL: 048-782-9679 | FAX: 048-782-9680

©2022 UDCO All Rights Reserved